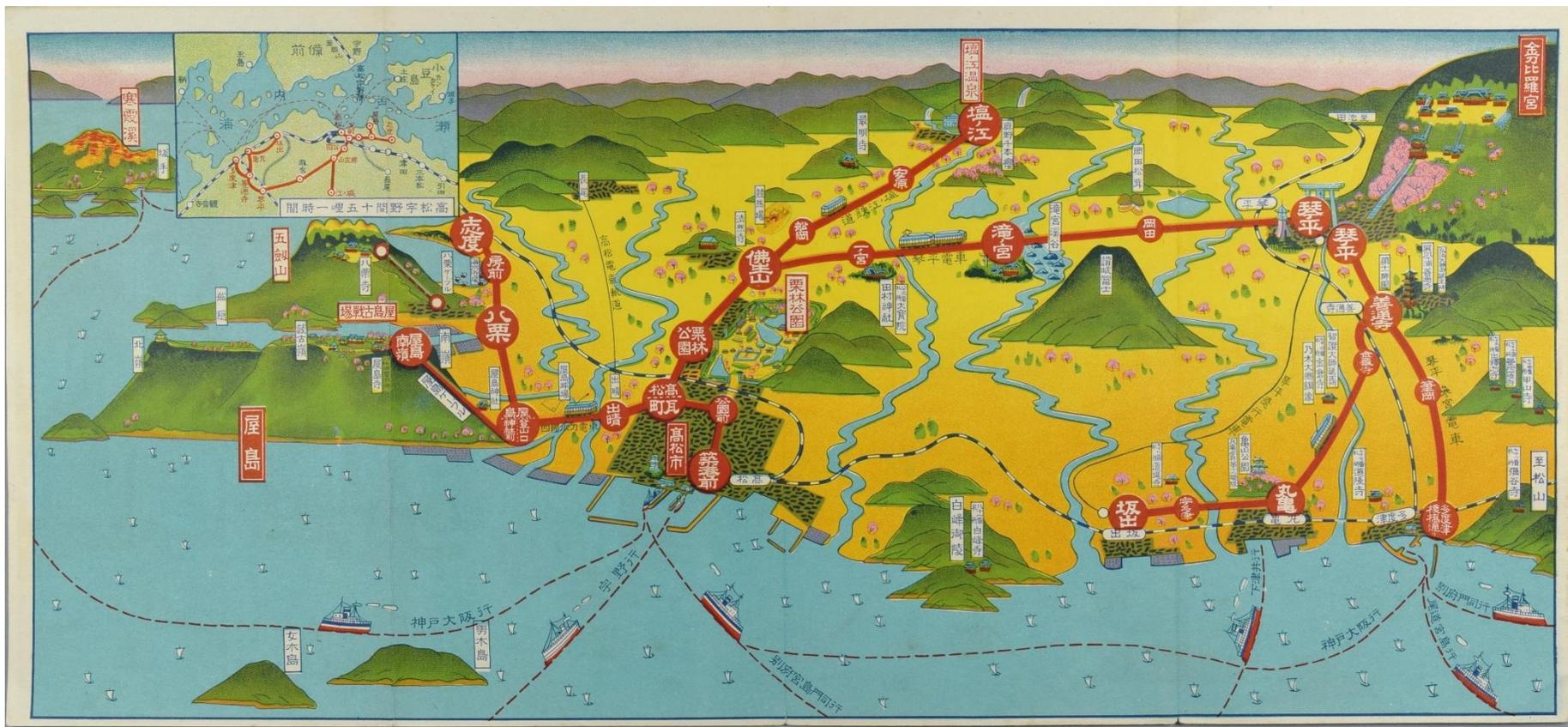


「讚岐遊覽電車御案内」



【資料名】 讃岐遊覧電車御案内

【年代】 昭和時代

【作成】 讃岐遊覧電鉄連合会

【解説】

高松、丸亀、多度津の三つの港と県内の観光地を結ぶ鉄道路線図。三つの港にくる船便は対岸の岡山や広島、関西からは大阪、神戸、九州からは別府の名がみえ、昭和初頭の観光ブームのなかで賑わう香川の様子がうかがえる。

三つの港と鉄道で結ばれた先には、志度、長尾、屋島、善通寺といった四国遍路の札所寺院が見られる。特に八栗、屋島では山頂とケーブルカーで結ばれており、四国遍路の利便性の向上や観光とのつながりが現れる当時時の状況がうかがえる。

塩江へは昭和四年(一九二九)に開業した塩江温泉鉄道(仏生山塩江間)が接続している。地域住民の利便性と観光地塩江の繁栄に寄与したが、戦時下の昭和一六年に廃止となった。

琴平には国鉄のほか琴平電鉄、琴平参宮電鉄、琴平急行電鉄の四線が乗り入れている。これにより琴平には四つの駅が立ち並ぶという極めて珍しい状況が生まれた。

こののち、戦時下の物資不足などによりいくつかの路線が廃線となる。その点で、この資料は香川県の鉄道網の最盛期の一つの形を物語る資料である。